

【1】区の将来像

豊かな自然の中で人やものが交流する、
安全で活力あふれるまち

【2】区の担う役割

- ◎新潟東港を中心とした国際物流拠点機能及び新潟西港や空港との連携による国際交流拠点機能を担います。
- ◎新潟東港周辺を中心として、工業の拠点機能を担います。
- ◎豊かな自然環境と安全で快適な居住環境が調和し、やすらぎと潤いのある空間を提供する機能を担います。

【3】目指す区のすがた

- 《新潟東港を中心とした物流と工業のまち》
- 《多様な農水産物を供給するまち》
- 《自然に恵まれた安全で快適な居住環境のまち》
- 《やすらぎと潤いのあるまち》

【4】まちづくりに向けた施策の方向

No.	目標	これまでの取り組みの検証結果	
		これまでの取り組み	成果・課題
①	国際物流拠点機能などの充実	<ul style="list-style-type: none"> 本市の骨格を形成し、新潟東港の物流機能を支える、広域的幹線道路である新潟中央環状線の整備を進めるとともに、国道113号線の交通渋滞を緩和し、安全で円滑な交通確保のために、ござれや阿賀橋等を整備しました。 (1) 新潟中央環状線の整備 (2) ござれや阿賀橋の整備 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 県道豊栄天王線から嘉山橋までは工事完了し、平成21年9月供用開始。嘉山橋から県道新潟長浦水原線までは実施設計・用地測量を完了し、引き続き整備を進めます。 (2) 平成21年9月、ござれや阿賀橋の工事を完了し、国道113号線の東区津島屋から北区名目所までを供用開始しました。
②	魅力ある農水産業の推進	<ul style="list-style-type: none"> 生産者と消費者の交流促進による地場農産物の消費拡大を図りました。 (1) 地場農産物(米・ジャガイモ・玉ねぎ等)の学校給食への導入をさらに進め、地産地消活動を推進しました。 (2) トマトキャンペーンの開催等で、北区のトマトを県内外に発信し、併せて、やきなすやにんじん、スイカ、メロン等の地域ブランドの確立を推進しました。 商店街の振興と観光交流の推進を図りました。 (3) 北区の農業・商工業・観光を一体化した「キテ・ミテ・キタク」を開催し、区の魅力を市内外にPRし、地域経済の活性化と産業の振興を図りました。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 地場農産物の学校給食への導入が進み、じゃがいも等は学校への納品量が年々増加しています。今後も引き続き、さらに導入が進むように事業を実施していきます。 (2) 同キャンペーンHPのアクセス件数が前年度比3倍となり、北区のトマトの知名度が上がってきています。今後も引き続き、地域ブランドの確立のため、事業を実施していきます。 (3) 同イベントは、民間主体の実行委員会が中心となって企画・運営を行っています。毎年、多くの飲食店や団体の出店があり、市内外からの来客で賑わっています。今後は、同イベント開催日だけでなく、継続的に北区を訪れてもらえるように、内容を工夫していく必要があります。
③	豊かな自然環境の保全と活用	<ul style="list-style-type: none"> 北区にある豊かな水辺や緑を再発見し、活用するため、市民と協働して水辺環境を守りました。 (1) 十二瀨で動植物の生態調査や学習会の開催、保全活動を実施し、瀨の魅力について情報発信しました。 (2) 派川加治川の環境整備協議会を組織し、美化清掃や、小学校での環境教育を実施しました。 阿賀野川と調和した景観を演出し、良好な河川環境の保全に配慮した市民の安らぎの場となる親水空間を整備しました。 (3) 阿賀野川右岸緑地等の整備 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 地域の環境保全活動を活性化し、稀少種を保全することができました。また、「水と土の芸術祭」開催と連携して、全国的な情報発信を行いました。 (2) 学校児童に環境教育の場を提供することで、地域にポイ捨て防止の意識が高まりました。 (3) 平成21年度、阿賀野川ふれあい公園を整備、供用開始しました。ほかに身近な公園や緑地、公園施設の整備改修を実施しました。引き続き、公園や緑地の整備により住環境を整え、地域住民の皆さんが安心して憩うことができる公園施設の改修等を行います。
④	安全で快適な居住環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 浸水被害の軽減を図り、快適で安全な居住環境の形成に向けて、雨水対策事業等の促進に努めました。 (1) 杉名調整池、早通調整池の整備 (2) 葛塚雨水ポンプ場等の整備 自主防災組織の結成を推進し、防火・防災意識を高め、地域と行政が一体となった地域防災力の向上に努めました。 (3) 平成25年度から、自主防災組織強化のため、災害時要援護者訓練や避難所運営訓練などの推奨訓練を実施した組織への活動助成金の増額を行いました。また、北区自治協議会と協働して、北区版避難所運営マニュアルを作成しました。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 杉名調整池(雨水貯留量2,940m³)を平成22年6月、早通調整池(雨水貯留量4,210m³)を平成24年12月にそれぞれ供用開始しました。 (2) 葛塚雨水ポンプ場は、雨水ポンプ1台(口径1.3m)と同ポンプ場へ流入させる雨水幹線(900m)を併せて整備し、平成25年3月に供用開始しました。 (3) 助成制度の拡充やマニュアルの完成により、地域防災活動を活発にし、災害時の初動体制を強化させることが可能となりました。今後は、より細かい単位で地域独自のマニュアルを整備し、訓練を重ねていくことが重要になります。
⑤	学習環境の整備と福祉のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 地域の独自文化の継承と創造に向けた市民活動の場として、文化交流の拠点となる施設を整備し、高度化する市民ニーズへの対応を図りました。 (1) 北区文化会館の建設。 地域コミュニティの結びつきを強化・充実すること等で、地域における支え合いの仕組みづくりを促進し、安心して暮らせるまちづくりを進めました。 (2) すこやか・あんしん・ふれあい事業の実施 (3) 笑顔・すこやか健康応援事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 市民が気軽に芸術文化に触れ、親しむ機会を提供するとともに、地域情報の発信拠点となることを目指して、平成22年6月、北区文化会館を開館しました。 (2) 障がい福祉、高齢福祉、児童福祉、医療の各関係者や民生委員等が垣根を越えて、グループワークを行う「ネットワーク・カフェ」を開催。各対象者の情報交換を行うことで支援に向けた課題の共有ができました。 (3) 市民の検診に関する考え方や健康づくりの意識調査を行い、その結果に基づいて、病気の早期発見の意義や方法を啓発しました。今後は、さらに検診の重要性の周知に努め、受診率の向上を図る必要があります。